



(公社)佐倉市シルバー人材センター
ホームページ

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

ICT推進分科会って なにをする委員会？

「ご存知でしたか？」

今回は「ICT推進分科会」の活動紹介です。



2月号から連載で理事活動委員会を紹介していますが、
今月は企画委員会の中のICT推進分科会です。委員長の
佐々木副会長に現在の活動状況を説明頂きました。



ICT推進分科会はセンターのICT化を加速
するために、理事と会員及び事務局が一体となった
組織として昨年11月に設立されました。現在のメン
バーは理事の佐々木委員長と葛西副委員長、会員
から新保さん(前事務局長)、森さん、嶋田さん、事務局から羽部次長
の6人で構成されています。分科会は月に2回程度リモート中、心で開
かれています。会議の他にも各自が自宅で沢山の作業をこなしてお
り、一番若い委員会ながら、すでに大変忙しい委員会のひとつになっ
ているかも知れません。」と佐々木委員長。

分科会設立以来、センターのデジタル化で取り組んでいる案件は、
①リモート会議の推進、②情報伝達の迅速化、③キャッシュレス決済
への対応、④就業報告のデジタル化の4つです。

リモート会議の推進と会員専用サイトによる情報伝達の迅速化の
2案件は既に軌道に乗っています。ZOOMによるリモート会議は理
事会をはじめ多くの会議で活用されており、今後、地域班や職群班など
での利用が期待されています。

センターのホームページからアクセスする会員専用ページSmile to
Smileも4月から始まり、センターと会員の間のインターネットを經由
した迅速な情報伝達が可能になりました。今後はコンテンツを充実さ
せ、将来は会員ごとの配分金明細を見ることもできるようになるとの
ことです。

3つ目はキャッシュレス決済の導入です。QRコード決済やクレ

ジットカード決済の導入・利用開始に向けて、現在事務局を中心に
準備を進めています。

4つ目は現在一番注力している就業報告のデジタル化です。訪問
介護事業ではすでに昨年から既成アプリを利用していますが、「他の
職種でも利用できるシステムを開発し、報告書の作成から、センター
への提出まで、手持ちのスマホひとつで簡単に処理し、将来的には、経
理処理への連携をも図っていきたい。」就業報告のデジタル化は、全
国のシルバー人材センターに先駆けて取り組んでいるもので、当セン
ターはパイオニアとして頑張っています。」と、佐々木委員長から力
強いコメントを頂きました。

ICTの推進は業務の効率化だけでなく、コロナの時代の「新しい
仕事様式」につながるものと考えられ、大いに期待したいと思います。
ICT推進分科会の皆様のご健闘をお祈り致します。今回の取材へ
のご協力、ありがとうございます。



私は、元々スマホ大好き人間ですが、文科系にはシステムを理解する
のに手間取りました。しかし、IT技術は、「こつこつ使えば使い易いのに」
の希望から進化したそうです。仕事ももっと楽になるように一緒に考
えましょう！
葛西 正敏副委員長



ICT推進委員を拝命致しました新保です。ICTの知識は全く自
信がありませんが、委員長始め他の委員の皆様にご教示頂きながら、先
ずは、就業報告書のICT化の実現を目指して参ります。ご指導の程よ
ろしくお願い致します。
新保 暉さん



昨年 11月よりICT推進分科会に参加させて頂いております。ワクチン
接種も始まりましたが、暫くはウィズコロナの状況が続くと思われ
ます。ICT化推進により安全安心にセンター事業が運営され、会員の方にとっ
ても使い易い仕組みが出来ればと考えております。宜しくお願い致します。
森 和良さん



就業報告の効率化に取り組んでいます。スマホが苦手な方やこれから始
める方、また年配の方でも、就業報告をスマホでやると簡単に便利そう
だ、何かかなりそうだ、と思っただけのような仕組み作りが目標です。
嶋田 哲郎さん



事務局ICT担当の羽部です。現在はスマホを使用した事務合理化
にチャレンジし、苦勞しております。スマホの活用で業務そのものを変
えられるのか、大きな企ての可能性を追求して行きたいと考えて参加し
ております。宜しくお願致します。
羽部 敏夫事務局次長

取材担当／広報委員 小野寺 弘孝

人と趣味

竹工藝

羽山 晃さん(志津地区22班)

羽山 晃さんは竹工藝友の会で趣味の竹工藝を楽しんでいます。幾何学模様の竹の網目が美しい作品を拝見しながら、お話を伺いました。

竹工藝をはじめられたきっかけは――

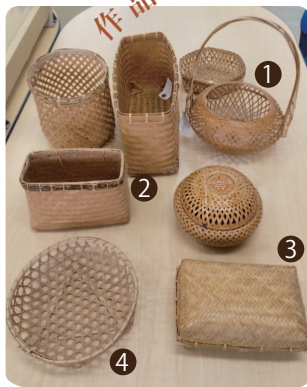
市の広報で、佐倉市シルバーいきがいマイスター講座の竹工藝クラスを知ったのが出会いです。卒業までに4年を要する講座で技能や知識を学び、多くの作品を創る内に縁あって、この講座の竹工藝の講師も務めていました。しかし、2019年秋の台風災害復旧の影響で2020年度は予算が付かず、講座は終了。そこで、卒業生達と「竹工藝友の会」という同好会をつくり、毎週木曜日にレインボープラザ佐倉に集まって竹工藝を楽しんでいます。



↑手の込んだ蓋つきの小物籠

竹工藝の魅力はどのようなところに――

なによりも一人で遊べることです。そして人と交流の出来ることです。編んでいる編み方やそのコツがわからないと、これに詳しい先輩や同僚に教えてもらいます。上手できるとお互いにうれしくなります。その様な事を重ねて作品を完成させたときの達成感はとても味わい深いものです。



作品の数々

- ① 手付き花籠
- ② 布地と組み合わせて手提げバッグになる四角い籠
- ③ 四角の蓋つき籠はおにぎりを入れると洒落た弁当籠に
- ④ その他ザル 等々

網目模様や形はどのようにして――

竹の編み方は数が多く、其々に呼び名があつてパターン図もあります。作品の構想が決まると、これを基にして編みます。竹ひごの色の違うものを取り入れて趣向を凝らし、丁寧に編み込むことで素晴らしい幾何学模様仕上がります。

作品づくりで一番たいへんな作業は――

竹ひご作りです。切った真竹を細かく割り、幅3ミリ、厚み0.5ミリの均一な竹ひごを作ります。編む作業はとても楽しいので、時間はかかってもさほど大変とは感じません。

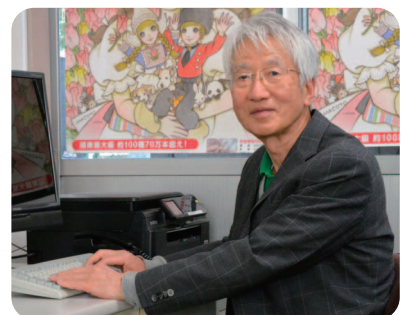


取材の日は同好会の活動日。羽山さんは、手本を見て教え合いながら作品づくりを楽しまれている皆さんを、温かく見守っておられました。羽山さん、竹工藝の魅力を先輩に伝えながら、素敵な作品を編み出してください。ありがとうございました。

取材担当／広報委員 徳野 廣一

2年間ありがとうございました

2019年6月から、理事活動委員会・広報委員長の役を務めてまいりましたが、このほど退くことといたしました。この2年間の広報活動を通じて、多くの会員の方と知り合うことができ、また、センターの運営の仕方や会員がどんな仕事をされているかなどを知ることが出来ました。有意義な体験であったと思います。



編集に当たっては、いわば、「事務局だより」がNHKならば、「ハローシニア佐倉」は民放の昼のワイドショーといった趣で、親しみやすく読んでいただける紙面づくりを目指してまいりましたが、力及ばずの感が否めません。「あの記事見たよ」と記事の感想を頂けることが励みになりますので、ぜひ広報委員に声をかけていただければと思います。最後に、快く取材に応じて下さった役員・事務局の皆さん、常に支えて下さった役員・事務局の皆さん、そして「チーム広報」の仲間へ感謝し、結びの言葉といたします。

前広報委員長 長田 成兒

ハローシニア佐倉7月号 休刊のお知らせ

理事活動委員会見直し作業の為、休刊致します。宜しくご了承の程、お願い致します。